




部族民通信
Youtube人類学
講座

2024年10月～
2025年7月



ヘーゲル 精神現象学
La Phénoménologie de
l'Esprit Hyppolite 訳

仏語翻訳版から
解く絶対知の追求 前文

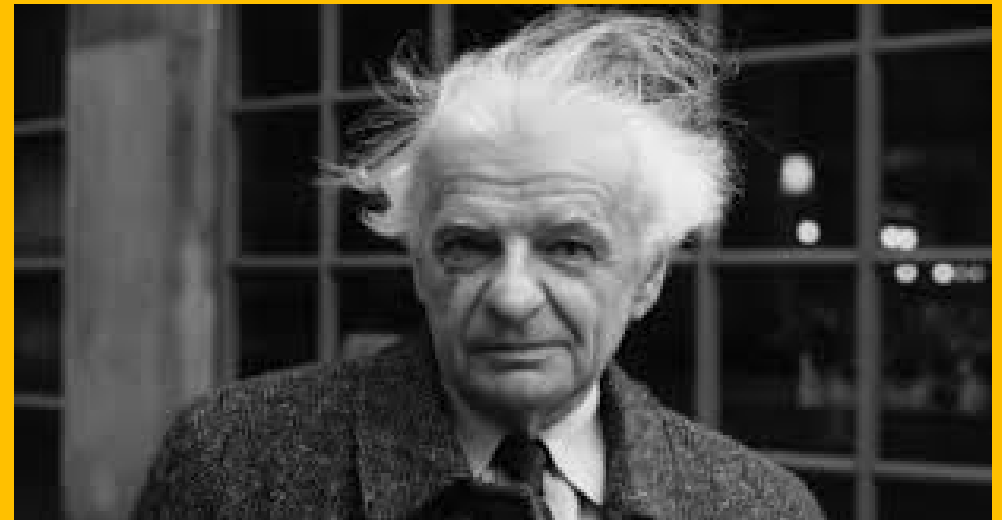
部族民通信Youtube人類学講座
2024年10月~25年7月 投稿番外

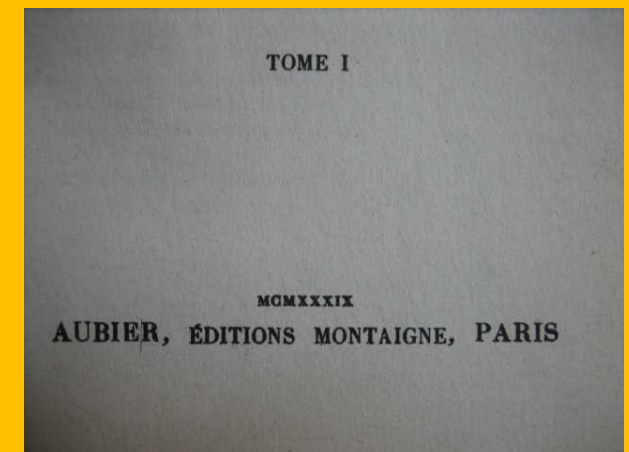
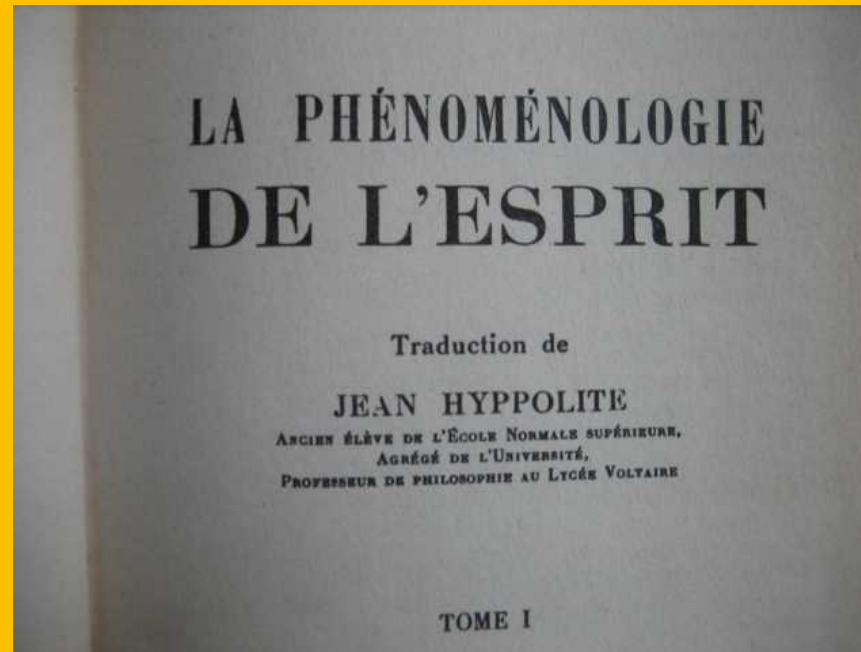
部族民通信 2024年10月



著者ヘーゲル、本書を刊行した頃の肖像画
(ネットから、右写真も)

翻訳は哲学者Hyppolite (Jean、1907~1968年フランス、ドイツ観念哲学、高等師範学校長、フランス学院哲学教授など歴任)





赤の羊皮装丁全2巻700ページ（左）、中央は表紙、名前Jean Hyppoliteの下は略歴、高等師範卒、大学教授資格、リセヴォルテール校哲学教授。ローマ数字の出版年は1939年（右）

本書はAubier社モンテーニュ刊（1939年パリ）。Hyppolite著は他に « Genèse et structure de la Phénoménologie de l'esprit » 精神現象学の生成と構造が刊行されている（ガリマール社1957年刊）。似ている書題であるが、刊行された経緯は、原訳本が「難しすぎる」の声が上がり、Hyppolite自らがドイツ観念哲学との繋がりを説き、解説を書きいれた別の本です（写真）。訳本あり。

ヘーゲル全集（金子訳岩波）に本書も掲載されるがドイツ語原本からの訳です。本稿の元本の（Genèse…の付かない仏語版）Hyppolite書は日本に紹介されていない。導入章ではヘーゲル弁証法の（初期の）思想が見事に説明されている。

本稿で引用する仏語原文は章の全体（12頁）の五分の1ほど。



La Phénoménologie de l'esprit est probablement le premier livre dans lequel vous devriez vous plonger si vous souhaitez comprendre la philosophie hégélienne.

Elle mérite donc pour nous de garder son statut originel :

celle d'œuvre première, par laquelle on rentre dans le système hégélien.

精神現象学はあなたがヘーゲル哲学を理解したいならば、まずはじめに読むべき作品です。ヘーゲル哲学の原初の姿を見せてくれる。体系を極めたいとするならば、まず初めの作品から入るべき。

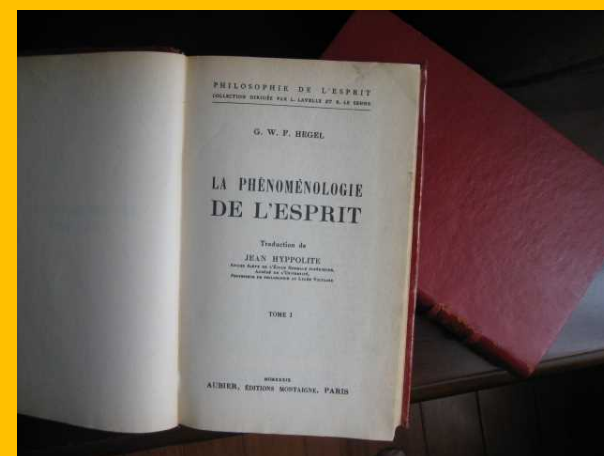
(ネット : Cyril Arnaud, fondateur du site Les Philosophes)

ヘーゲル著

精神現象学 仏語翻訳版 La Phénoménologie de l'Esprit

巻頭のIntroduction 導入の章12頁を紹介

ヘーゲルの弁証法思想が12頁に圧縮される、難解。しかし本書全体も12頁も読まなくとも、本パワポを通読すればヘーゲルが理解できる。飲み会なんかで弁証法のウンチクを垂れられる



本章のあらまし：理性（science）が精神の基盤となる。悟性（conscience）は理解活動を担い、知（savoir）が持ち込む対象（objet）を検証する。弁証法が展開する舞台は認識（conscience）の現象の野。悟性と知の活動は節目と経験の繰り返して「絶対知、真理」に近づく。

対象、検査など認識活動は、現象の野に影として発現する。この精神現象の過程には深刻な陥穽が潜む。

外部から取り入れる対象モノ、は現象と化した途端（概念）本来（持っていたはず）の真理を失う。

本章のあらまし：理性（science）が精神の基盤となる。悟性（conscience）は理解活動を担い、知（savoir）が持ち込む対象（objet）を検証する。現象の弁証法が展開する舞台は認識（conscience）の野。悟性と知の活動は節目と経験の繰り返して「絶対知、真理に近づく。

対象の概念、検査など認識上の活動は、現象の野に影として発現する。この精神現象の過程には深刻な陥穽が潜む。外部から取り入れる対象モノ、は現象と化した途端（概念）、本来（持っていたはず）の真理を失う。故に悟性がモノを検査しようが、それは概念、別の言葉で「現象の影」で真理から引き剥がされている。故に、ヒトは真理には絶対に近づけない。

悟性が弁証法の工程（expérience）経ながら、あらゆる外観（余計な知識）を脱ぎ捨て、いつに日にか真理を捉えるであろうと本章は締めくくられる。

現象舞台の出演は：我々理性、オレ悟性、悟性手下の知、場所貸しの観念、美の女神沢口やす子嬢

本書読解の鍵語は4

理性 Science

認識 Connaissance

悟性 Conscience

知 Savoir

4の鍵語

理性 Science

認識 Connaissance

ヒトに本来備わる思考
Transcendental 先験 (カント)
理性は思考の根源
認識は精神現象の野を形成

悟性 Conscience

知 Savoir

思考を駆動させる力
Entendement 考える力 (同)
悟性はモノ概念を経験する
知はモノ概念を現象の野に持ち込む

準鍵4語は

基準 Measure

検査 Examen

節目 Moment

経験 Expérience

準鍵4語は

基準 Measure

検査 Examen

弁証法の進行の次第
基準は理性が形成するモノ有り様の
概念
検査は概念がモノを質す

節目 Moment

経験 Expérience

弁証法の手順、進行の具合
節目は検査にあたり基準が整う時
経験は弁証法（作用反作用統合）の
一通りを（悟性が）実践する。弁証
法そのもの（Hyppolite）

まとめ1 鍵語4 理性、認識、悟性、知

Science connaissance conscience savoir

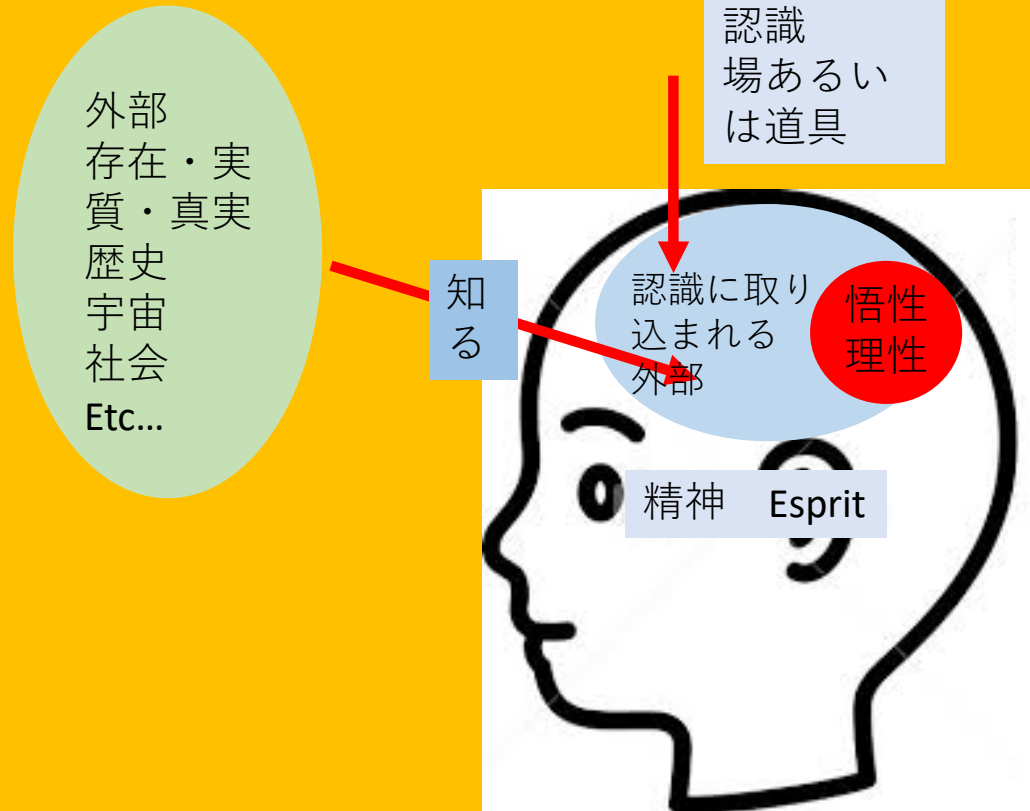
準鍵4語 基準、検査、節目、弁証法

Mesure examen moment dialectique

準々鍵は en-soi (律自) pour-soi (覚自)

ヘーゲル精神現象学 絶対知の追求

用語	原典では	英語	意味	他哲学者
精神	Esprit	Spirit	頭の中の観念的定義	Cogito オレ考える デカルト
認識	Connaissance	Knowledge	知が獲得した対象を収める舞台。ここで悟性と対象の真実対決が展開する。（解析する道具とする論も同時展開する）	Transcendental 先験 1 モノ より先にオレ思考持つカント
理性	Science	Science	判断の原泉能力	Transcendental 2 カント
悟性	Conscience	Consciousness	認識の場の対象を査問し真理に肉薄する力	Entendement 考える力 1 カント
知る	Savoir	To now	対象を認識の舞台に引き出す	Entendement 2 カント



頭の図はネットから拝借

外部・宇宙は存在・実質であり真実を具有する知 (Savoir) は存在 (対象Objetの概念) を認識に籠絡し、悟性がそれを観察 (Examen) する。悟性は認識の中から真実を求める

しかし真実を探れない
なぜなら自己に取り入れた対象には「知る」の工程が加わっている
疑似の真実 (概念) を検査することとなる

悟性と対象の対峙は経験Expérience = Dialectique弁証法を経て次の段階に移り、経験の繰り返し

いずれ絶対知をモノにできよう

ヘーゲル精神現象学 絶対知の追求

用語	原典では	英語	意味	他哲学者
精神	Esprit	Spirit	認識の弁証法的やり取りが起こる場	Cogito オレ考える デカルト
認識	Connaissance	Knowledge	知が獲得した対象を収める舞台。ここで悟性と対象の真実対決が展開する。（解析する道具とする論も同時展開する）	Transcendental 先験 1 カント
理性	Science	Science	判断の原泉能力	Tr 2
悟性	Conscience	Consciousness	認識の場の対象を査問し真理に肉薄する力	Er え か E 2 か
知る	Savoir	To now	対象を認識の舞台に引き出す	



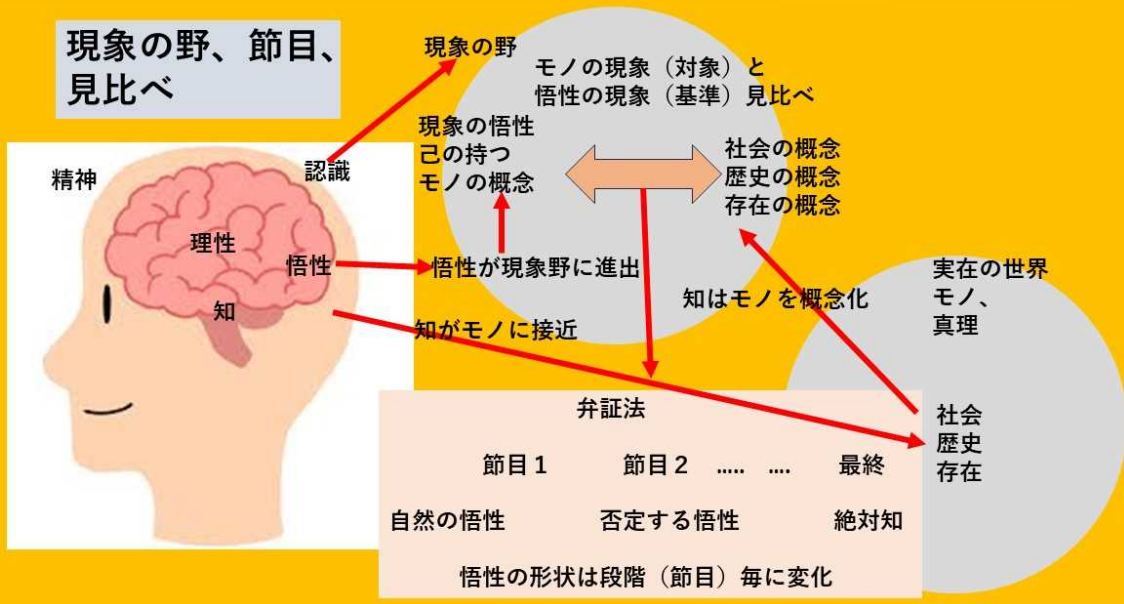
まとめ 2

2-1 精神を構成する要素（4の鍵語）の定義
性状の解説

2-2 弁証法の活動、現象と真理
作用反作用、統合の仕組み

本書では上の2点のみが記述される

現象の野、節目、見比べ



部族民通信2024/10/15

参考スライド
本文紹介1用に作成
実質の世界
現象の野
弁証法の仕組み
(詳細説明は次回)

最終文節に結論（本書全体の結語）がまとまっているので、以下に引用；

« En se poussant vers son existence vraie, la conscience atteindra un point où elle se libérera de l'apparence, l'apparence d'être entachée de quelque chose d'étranger qui est seulement pour elle et comme un autre ;

elle atteindra ainsi le point où le phénomène devient égal à l'essence, où, en conséquence, la présentation de l'expérience coïncide avec la science authentique de l'esprit ;

finalement, quand la conscience saisira cette essence qui lui est propre, elle désignera la nature du savoir absolu lui-même »

それら節目とは悟性の形態 (Figures) に他ならない。悟性は節目を通して、何やら馴染まないものの混じる外貌、悟性と知にまとわりつく (純化を妨げる) 外貌を脱ぎ捨て、

ある一点、己の存在の真実をかちとる点、に到達する。現象が実質 (Essence) に同等となる点である。

この流れにおいて (弁証法の) 経緯 (Expérience) が精神の正統なる理性 (Science) 一致する。

最終的に悟性はこの、己にふさわしい実質を具有する、絶対知 *savoir absolu* を取り込む事となる。

finalement, quand la conscience saisira cette essence qui lui est propre, elle désignera la nature du savoir absolu lui-même »

最終的に悟性はこの、己にふさわしい実質を具有する、絶対知savoir absoluを取り込む事となる



ヘーゲル 精神現象学
La Phénoménologie de
l'Esprit Hyppolite 訳

仏語翻訳版から
解く絶対知の追求 前文
了

部族民通信 人類学Youtube講座

2024年10月~2025年7月学期